

高齢者が主体の地域づくり活動の現状

秋田大学大学院 学生会員 ○中野 靖明
秋田大学 正会員 木村 一裕
秋田大学 正会員 日野 智

1. はじめに

近年、少子高齢化による人口減少や、地域コミュニティの衰退による地域独自の伝統・文化の消失が懸念されている。その一方で地域の住民が主体となり、地域の活性化を目指した活動が行われているが高齢化による影響により高齢者が主体とならざるを得ない活動も存在する。しかし健康な高齢者は、健康づくりや社会貢献、生きがいなどの理由から、地域や社会への高い参加意識を持っている。

そこで本研究では地域づくり活動における高齢者の持つ能力・資質に着目し、現在行われている高齢者が主体となった地域づくり活動の現状と、課題を明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

高齢者が主体となった地域づくり活動の現状と高齢者の持つ力を探るために、現在活動を行っている秋田県内の団体にアンケート調査を行った。表 1 にアンケートの概要を、表 2、3 にアンケート解答団体の概要を示す。

表 1 アンケート調査概要

対象	地域づくり活動の担い手側
配布先	秋田県内の地域づくり活動団体 秋田県新聞紙「秋田魁新報」掲載団体など
調査内容	1. 団体概要 2. 団体における高齢者が活躍している活動 3. 団体に所属している高齢者が持っている力
配布枚数	97票
回収枚数	63票(回収率: 64. 9%)

表 2 地域づくり活動の目的

地域づくりタイプ	団体数
地域振興(資源活用、農業、商業、観光)	13
自然(保護、活用)	9
歴史文化(保存、活用)	23
福祉(ボランティア、環境美化、子供育成)	20

表 3 中心的に活躍している世代

活動を中心的に担っている世代	団体数
高齢世代	30
若・中年世代	13
両方の世代	22

3. 高齢者個人の持つ能力・資質

団体として目標に対してどの程度達成できているか自己評価をして頂いた。その結果を表 4 に、団体に所属している高齢者の能力・資質との関係を表 5 に示す。

表 4 団体活動として達成度自己評価

達成度	票数
(1)十分出来ている	12
(2)大体出来ている	32
(3)やや出来ている	14
(4)あまり出来ていない	7

表 5 団体活動自己評価と高齢者個人の能力・資質(%)

高齢者が持っている能力・資質	(1)十分出来ている	(2)大体出来ている	(3)やや出来ている	(4)あまり出来ていない
1. 長い経験からの知識や技術の発揮	91.7	81.1	78.6	71.5
2. 勤労世代に比べゆとりある時間	75.0	68.8	78.6	71.5
3. 郷土の歴史・文化の保存活用への強い意	66.7	71.9	71.4	71.5
4. 学ぶことに対する強い意識	83.4	68.8	78.6	28.6
5. ゆっくりだが丁寧で粘り強い姿勢	75.0	68.8	78.6	57.1
6. 年長者としてのリーダーシップの発揮	66.7	71.9	85.5	14.3
7. 仲間の活動を積極的に応援する姿勢	75.0	81.2	85.5	0.4
8. 共に活動を進めていく仲間の多さ	58.4	59.4	57.1	0.0
9. これまで培ってきた人とのつながり	83.4	81.2	85.5	28.6

(1)十分に出来ている(2)大体出来ている(3)やや出来ていると答えている 3 つのグループでは全ての項目が高い割合を示した。これに対して(4)あまり出来ていないと答えたグループでは「リーダーシップの発揮」「学びに対する意識」「共に活動を進めていく仲間の多さ」の項目において低い評価となった。これらから団体に所属している高齢者の能力・資質が大きいことがわかった。

また高齢者の能力・資質が団体の達成度および世代構成ごとでどの程度影響しているかを知るため、数量化理論Ⅱ類を用いて分析を行った。外的基準と高齢者の能力・資質との関係を表 6 示す。活動の達成度に与える影響としては「人的つながり」「ゆとりある時間」「リーダーシップの発揮」の順で、世代構成に与える影響としては「人的つながり」「学びへの

キーワード：高齢者，地域づくり，潜在能力

連絡先：〒010-8502 秋田市学園町 1-1, TEL(018)-889-2368, FAX(018)-889-2975

強い意識」「経験や知識の発揮」の順で強く関係することがわかった。共通する項目として「人的つながり」があり、長く地域に暮らしていることによるコミュニティ内でのつながりの強さや、長い社会経験で得られた多くの仲間の存在が大きな要因と考えられ、これらが団体に存在する高齢者個人が持つ能力と考えられる。そしてこのような高齢者が持つ高い能力が活動としても活かされていると考えられる。

表 6 高齢者の力が外的基準に与えている影響

レンジ	活動達成度 ごと	世代構成 ごと
高齢者の能力・資質		
1.長い経験からの知識や技術の発揮	1.39	1.98
2.勤労世代に比べゆとりある時間	2.85	0.96
3.郷土の歴史・文化の保存活用への強い意識	1.46	0.47
4.学ぶことに対する強い意識	1.73	3.52
5.ゆつくりだが丁寧に粘り強い姿勢	1.77	1.11
6.年長者としてのリーダーシップの発揮	2.81	1.81
7.仲間の活動を積極的に応援する姿勢	2.73	1.04
8.共に活動を進めていく仲間の多さ	1.11	1.68
9.これまで培ってきた人とのつながり	3.05	3.77
相関比	0.68	0.51

4. 団体における高齢者の活躍

3 章と同様に達成度と高齢者が活躍していると思う活動との関係を表 7 に、外的基準と高齢者が活躍している活動との関係を表 8 に示す。

表 7 団体自己評価と高齢者の活躍している活動(%)

高齢者が活躍している と思う活動	(1)十分 出ている	(2)大体 出ている	(3)やや 出ている	(4)あまり 出していない
1.定期的な活動 や会議の開催	91.7	59.4	71.4	57.1
2.協力者や参加者を 増やすための活動	58.4	40.6	35.7	14.3
3.何事も楽しく誰に とっても充実した活動	83.4	62.6	64.3	28.6
4.地域住民や他の 地域との交流	100.0	46.7	50.0	28.6
5.次代を担う後継者 の育成	58.4	37.7	35.7	57.1
6.活動資金の 管理・運営	58.4	37.7	50.0	0.0
7.社会や周囲の理解を 得るための活動	75.0	40.7	50.0	14.3
8.各関係団体 との連携	66.7	50.0	35.7	14.3
9.行政との連携	58.4	43.8	57.1	0.0
10.常に新たな取組み や模索を欠かさない	66.7	40.7	35.7	14.3

全体的に見て「定期的な活動」「楽しく充実した活動」の値が高い。これは高齢者の持つ時間的余裕と人を思いやる人間的暖かさが、定期的で楽しく充実した活動につながっていると考えられる。

ここで表 5 と表 7 を比較して考えると(2)(3)のグループに比べ(1)のグループでは高齢者が活躍している比率が高い。この結果は団体内の様々な活動分野に、高齢者が主体的に活躍することが、団体の活性度と関連性が高いと考えられる。また(2)(3)グループでも高齢者個人の能力・資質が(1)グループと差が少ないことから、団体活動を活性化させる潜在能力を有し

ていると考えられる。

一方で表 8 から活動の達成度に与える影響として「行政との連携」「楽しさ」「学び」の順で、世代構成に与える影響としては「人的つながり」「周囲の協力」「資金の管理運営」の順で強く関係することがわかった。

表 8 活躍している活動が外的基準に与えている影響

レンジ	活動達成度 ごと	世代構成 ごと
高齢者が活躍している活動		
1.定期的な活動や会議の開催	0.99	1.34
2.協力者や参加者を増やすための活動	2.22	1.30
3.何事も楽しく誰にとっても充実した活動	2.88	0.71
4.地域住民や他の地域との交流	1.10	1.70
5.次代を担う後継者の育成	1.11	0.49
6.活動資金の管理・運営	2.16	1.43
7.社会や周囲の理解を得るための活動	2.29	1.64
8.各関係団体との連携	1.77	1.09
9.行政との連携	3.76	0.83
10.常に新たな取組みや模索を欠かさない	2.48	0.58
相関比	0.55	0.58

一例として秋田県由利本荘市で木造校舎の利活用を行っている「鮎の風実行委員会」の概要を表 9 に示す。このような同じ志を持つ仲間との協力により、同じ個人同士として楽しく共に学びながら、自らの能力を発揮し、積極的に活動に取り組む姿勢が高齢者の持つ魅力であると考えられる。

表 9 活動事例「鮎の風実行委員会」

名称	鮎の風実行委員会
活動目的	昭和28年に建設された旧鮎川小学校が平成16年3月統合により廃校。日本の原風景と貴重な木造校舎、地域のシンボルを利活用、保存することで、地域の活性化と連帯感の醸成を図る。
活動内容	1.ボランティアによる庭木の剪定作業(春夏)、除草、建物内外の清掃、花壇の手入れ。 2.年3回の交流会の開催(講演・音楽の広場・コンサートなど) 3.運営費用や活動費に充てるため、由利高原鉄道記念切符や建物のペーパークラフトを作製、寄付金付で販売。
高齢者の活躍	・庭木の剪定、除草作業の技術と経験がある。 ・積極的な事業への参加。 ・持っている知識を次世代に伝えようとする意思。 ・地域のつながりが強く、口コミで仲間を増やしている。

5. まとめ

今回の調査では個人として、団体の一員としての高齢者の能力を示した。そして非常に強い能力を持つ高齢者が精力的に活動に取り組んでいるという現状も明らかになった。今後の課題としては「世代交代の難しさ」が多くの団体で問題視されており後継者の育成が課題であるということがわかった。しかし一方で「高齢者の活動している姿がそのまま後継者の育成となっている」「若者を励まし引っ張る力がある」という意見もあり、高齢者の働きによって活動自体の持続につながる可能性が考えられる。